

# 平成28年度 「未就学児の体力向上支援事業」

～専門指導者派遣事業；実施した18園(所)の報告書まとめ～



島根県教育庁保健体育課

この度、平成28年度未就学児の体力向上支援事業の一環として「専門指導者派遣事業」を行った松江市内18の幼稚園、保育所の実施報告書をまとめました。各園が専門指導者の派遣前と派遣後に行った運動能力調査（25m走・立ち幅跳び・ボール投げの3種目）の結果を比較するとともに、教員・保育士の意識や、この事業を通じて示された各園の成果・課題を考察しています。

本事業、そして、日常行っている運動遊びの実践を振り返ることにより、

- ① 多様な動きが経験できるように様々な遊びをとり入れる
- ② 楽しく体を動かす時間を確保する
- ③ 発達の特徴に応じた遊びを提供する

という「幼児期運動指針」の3つのポイントを念頭においた取組が、各幼稚園・保育所でより一層充実することを期待しています。

◆ 対象児 年長児 ※園の規模によっては、年中児等も参加

◆ 実施園・幼児数

園名	年長児	年中児	園名	年長児	年中児
古江幼稚園	5名	8名 (35年7月2名)	ひよし保育園	8名	8名
出雲郷幼稚園・保育園	11名	12名	しらゆり第3保育園	29名	
朝酌幼稚園	5名	7名	御津保育所	16名	4名
城北幼稚園	38名		比津ヶ丘保育園(融合センター・わらべのそ)	13名	
母衣幼稚園	27名		やつか保育園	21名	
津田幼稚園	28名		しらゆり第2保育園	33名	
幼保園のぎ	63名		松江保育所	20名	
松徳幼稚園	11名		城東保育所	23名	
湯町保育園	24名		しらとり保育所	20名	

◆ 指導者 特定非営利活動法人ジョイナススポーツクラブ(出雲市) ※各園2回指導

<活動目的>

主にスポーツ教室・講師派遣を主軸とし、幼児から高齢者・障がい者までを対象としたスポーツの啓発・普及活動を行い、精神の高揚と健康の増進ならびに体力の向上を目指すとともに、スポーツ指導者の育成事業やスポーツ競技力を促進することにより、地域社会全体の発展に寄与する。

<実績>

- ・出雲市内幼稚園、保育所への指導者派遣及び研修講師
- ・鳥取県「子どもの体力向上プロジェクト」への指導者派遣 など

◆ 主な指導内容

1回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歩く、走る、止まるなどの動きの組合せ及び指導方法</li> <li>・ボンボードを使った様々な体の動きの経験及び習得方法</li> <li>・各園にある器具や用具を活用した環境構成の工夫</li> </ul>
2回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄棒、マット、跳び箱などの技の習得に向けての指導方法、場づくり</li> <li>・遊びを通してボールを扱う技能を高めていく環境づくりと指導</li> <li>・縄を使った運動遊びと指導</li> </ul>

## 【考察】

### 1 専門指導者の派遣前と派遣後の比較

#### (1) 幼児の体力について

- 運動能力調査の結果を見ると、25m走では67%、立ち幅跳びは88%、ボール投げは78%向上している。また、教員・保育士の意識調査において、78%の園で幼児の体力が向上したと回答している。
- 子どもの成長・発達具合や専門指導者の1回目の指導と2回目の指導のスパン(最も短いところは3週、長いところは22週)、さらには、指導当日の天候等によって、運動能力調査の結果にも影響があることを考慮する必要がある。

#### (2) 幼児の日常の運動遊びについて

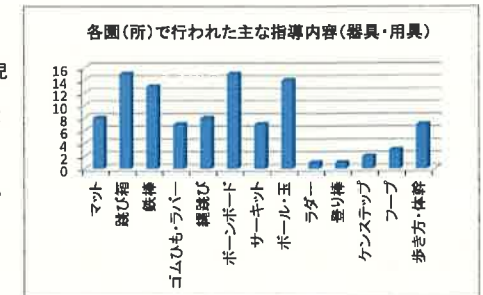
- 教員・保育士の意識調査において、94%の園で幼児の日常の運動遊びが活発になったと回答している。
- 活発になったと回答した園が多かった要因としては、専門指導者が提供した様々な運動遊びプログラムの内容や場の工夫、担任の日常的な働きかけ等が刺激となり、幼児の運動遊びに対する興味・関心や挑戦意欲を高めることにつながったものと考えられる。

#### (3) 教員・保育士の意識について

- 教員・保育士の意識調査において、100%(全て)の園で幼児期の運動遊びに対する教員・保育士の意識、実践意欲が高まったと回答している。
- この事業は、教員・保育士を1ヶ所に集めて行う教室型の研修ではなく、専門指導者が各園に出向いて行う訪問指導型の研修と言える。教員・保育士にとって、目の前の子どもたちの様子を観察しながら専門的・段階的な指導方法を見聞したり実際に指導(補助)をしたりしたことが、意識の向上、実践意欲の高まりにつながったものと考えられる。

### 2 指導内容について

- ジョイナススポーツクラブが掲げるコンセプト「幼児期の体幹への良質刺激の提供」「全身をバランスよく動かすコーディネーション能力を向上させる運動遊びの提供」「ロコモティブシンドロームの予防」をもとに、多様な運動遊びプログラムが提供された。
- 一律ではなく、各園の遊戯室の広さや所有している教具・用具等に応じた運動遊びが提供され、日常の運動遊びにつないだりアレンジしたりしやすいように構成されたプログラムが展開されていた。



### 3 各園の成果・課題より

- 「子どもたちが進んで運動遊びをするようになった。」  
「普段の遊びの中に広がり(多様性)が見られ、いろいろな遊具や用具を使って遊ぶようになった。」  
「指導してもらったことがきっかけとなって、その後も跳び箱や鉄棒など挑戦する子どもが増えた。」  
「このように、日常の運動遊びに好ましい変化が表れたことが大きな成果である。また、継続して遊ぶようになったことで、子どもの集中力や意欲、自信が高まった、姿勢がよくなった、という園もあった。さらに、担任だけではなく、他の職員も子どもたちの活動の様子やジョイナススポーツクラブの指導法を観察したり写真・ビデオに撮ったりする園も見られ、子どもたちに体を動かして遊ぶことの楽しさをしっかり体感させたいという教員・保育士一人一人の熱意、園としての前向きな姿勢も感じることができた。」  
「今後も全職員で運動遊びの意義、必要性を共通理解した上で、「園として継続して取り組まなければならないことは何か」「今ある環境をどのように工夫・改善していったらよいか」等共有しながら、実際に取り組む園が増えることを期待する。また、次期幼稚園教育要領及び保育所保育指針の改定を控える中で、運動遊びを通じた保育所・幼稚園・小学校の接続、いわゆる保幼小の接続に向けた実践を平滑・浸透させていくことが必要である。」

## 専門指導者を派遣する前と派遣した後の比較

No.	1回目と2回目の期間	派遣前後の運動能力調査の結果																教員・保育士による意識調査の結果																	
		25m走(男児)			25m走(女児)			立ち幅跳び(男児)			立ち幅跳び(女児)			ボール投げ(男児)			ボール投げ(女児)			種類		幼児の体力			日常の運動遊び			教員・保育士の意識							
		向上	変化なし	低下	向上	変化なし	低下	向上	変化なし	低下	向上	変化なし	低下	向上	変化なし	低下	向上	変化なし	低下	ソフト	テニス	向上	変化なし	低下	向上	変化なし	低下	向上	変化なし	低下					
1	13週	1			1			1			1			1			1			1			1			1			1						
2	19週	1			1			1			1			1			1			1			1			1			1						
3	22週	1			1			1			1			1			1			1			1			1			1						
4	13週		1		1			1			1			1			1			1			1			1			1						
5	20週	1			1			1			1			1			1			1			1			1			1						
6	22週	1				1			1			1			1			1			1			1			1			1					
7	7週	1			1			1			1			1			1			1			1			1			1						
8	14週	1			1			1			1			1			1			1			1			1			1						
9	17週	1			1			1			1			1			1			1			1			1			1						
10	8週	1			1			1			1			1			1			1			1			1			1						
11	8週	1			1			1			1			1			1			1			1			1			1						
12	14週		1		1				1			1			1			1			1			1			1			1					
13	7週			1			1			1			1			1			1			1			1			1			1				
14	20週	1			1									1			1			1			1			1			1			1			
15	8週	1				1			1			1			1			1			1			1			1			1			1		
16	5週		1			1			1			1			1			1			1			1			1			1			1		
17	7週		1			1			1			1			1			1			1			1			1			1			1		
18	3週		1			1			1			1			1			1			1			1			1			1			1		
		12	5	1	12	2	4	14	1	2	16	0	1	14	2	2	14	0	4	2	16	14	4	0	17	1	0	18	0	0					
		67%	28%	6%	67%	11%	22%	82%	6%	12%	94%	0%	6%	78%	11%	11%	78%	0%	22%			78%	22%	0%	94%	6%	0%	100%	0%	0%					

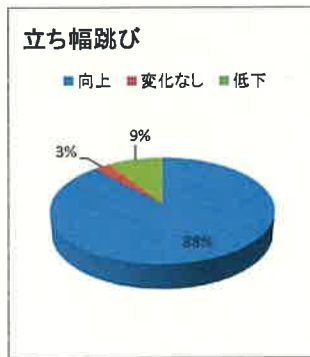
各種目男女計
--------

25m走		
向上	変化なし	低下
24	7	5
67%	19%	14%

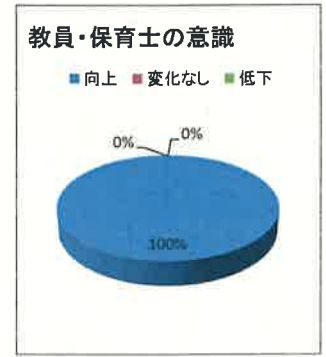
立ち幅跳び		
向上	変化なし	低下
30	1	3
88%	3%	9%

ボール投げ		
向上	変化なし	低下
28	2	6
78%	6%	17%

### 派遣前後の運動能力調査の結果



### 教員・保育士による意識調査の結果



## 各園の成果と課題

No.	幼児		教員・保育士	
	成果	課題	成果	課題
1	<p>○ボーンボードを貸していただき、見つけた遊びの時間に毎日使って遊んでいた。そのことにより、背筋が付き、エビのポーズが長くできるようになった。また、友達とぶつからないように注意しながらスピードを調節したり、向きを変えたりするなど、最初に課題としていた状況認知をしながら自分の体を動かすことができるようになってきている。</p> <p>○自分の苦手な用具を使った遊び(鉄棒・跳び箱・ボール)をスモールステップでの指導方法で子どもの挑戦意欲がかきたたられ、進んで身体を動かす遊びに向かうようになった。</p> <p>○教えてもらった、運動する前の柔軟体操を朝のげんきタイムでやっている。家でもやる子どもが出てきており、家庭でも身体を動かす遊びをしている。</p>	<p>▲毎日少しでも挑戦する時間を作ると、力にもなり自信もつくと思うが、行事等あり難しい。2. 3日に1回のペースは継続して続けていく。</p> <p>▲登る、逆立ちなどの腕の筋力を高める活動ももっと取り入れたいが、のぼり棒がなく、代わりになるものを探したり、逆立ちしてつたって歩ける場所の確保をしたりなど、環境の構成を考えていく必要がある。</p>	<p>○用具を使った遊びは、「次はこうしてみよう」と、次の活動を子ども達に投げかけてしまいが、子ども達がやってみたい環境を整え、実際にできる環境を作り、身体を動かしているうちに自然に難しいこともできるようになっているというのが理想であることを学ぶことができた。</p> <p>○保育者が意識して、継続して身体を動かす活動を取り入れること、保育者も楽しんで活動することで、子ども達の気持ちも高まり、体力の向上につながるようになった。</p>	<p>▲幼児期の身体づくりは、生涯の健康にもかかわってくるので、積極的に取り入れていきたい。</p> <p>▲園全体でのげんきタイムで、身体づくりの指導計画を作っていき、実践につなげていきたい。</p>
2	<p>○教わったチーターの動きやボーンボード遊び、なわとび遊びをその後の遊びの中で意欲的に挑戦し、楽しむ姿が見られた。性的な遊びが好きな子どもが、「○○したよね。」など行って自分から遊び出す姿が見られ、運動遊びへの興味が増した。</p> <p>○平均台の飛行機の動きを取り入れて運動会の親子競技をした。</p> <p>○尻込みする子どもにやってみよう促し、「できなくてもいい！」ということを強調してくださったので、やってみようという気持ちにつながった。</p>		<p>○運動遊びの指導方法や道具の使い方を教わり、保育の中で活用することができた。おこなわぐり・ジャンプの遊びを喜び、クラスのみんなのお楽しみにして帰りの会などで楽しむことができた。</p> <p>○なわとび等のチャレンジカードを作って遊んだ際も、指導の中で教わったことを参考にして作ることができた。</p> <p>○ボーンボードを借りることができたので、継続して疎部ことができ、2回目の指導の際は、転倒や衝突の心配についても相談でき、新たな遊び方を教えてくださって勉強になった。</p>	
3	<p>○ボーンボードやケンステップ、巧技台などを使って遊ぶことで、体の色々な部分を動かして遊ぶようになった。また、普段の遊びの中にも広がりが見られ、雲梯・登り棒で遊ぶことが多くなった。</p> <p>○継続して遊ぶことで出来るようになったことが増え、自信や意欲につながった。</p> <p>○体力が付き、より長い時間、集中して運動遊びに取り組むようになった。</p>	<p>▲頭を下に向ける経験がまだ少ない。</p>	<p>○指導を受けたことをもとに運動遊び(サーキット)の年間計画を立て、継続して保育を行った。その結果、跳ぶ、くぐる、踏ん張るといった様々な動きを子どもに経験させることが出来た。</p> <p>○教員間で連携して運動遊びにかかわることで、運動面における成長を共有することが出来た。</p>	<p>▲継続して遊ぶ中でも、発達段階に沿って、少しずつ難しい動きやこれまで経験のない運動遊びを取り入れていくこと。</p>

No.	幼児		教員・保育士	
	成果	課題	成果	課題
4	<p>○普段運動遊びにあまり取り組まない子どもも、みんなで取り組むことで抵抗感少なく活動に参加することができていた。</p> <p>○運動遊びへの興味が高まり、鬼ごっこをしたり園庭で固定遊具に挑戦したりする姿が増えた。</p> <p>○運動会では、研修で教わった運動遊び(フープを用いた動き)を競技に取り入れた。</p>		<p>○運動遊びに対する意識が高まった。</p> <p>○跳び箱や鉄棒などに取り組む前に子ども達に経験させておくと良い動きを教えていただき、勉強になった。</p>	<p>▲継続して活動に取り組むことができにくかった。今後は、教えていただいた運動遊びを普段の遊びの中で子ども達が取り組みやすいように、環境構成を工夫していきたい。</p>
5	<p>○鉄棒では、指導してもらったことをすぐに実践することで、子ども達が自ら取り組む姿が多く見られるようになった。前回り降りには全員ができるようになった。逆上がりについても、サーキットにし、その中に取り入れることで、意欲的に取り組む姿が見られるようになっていく。</p> <p>○ゴムを使った遊びは跳び箱につながることを指導してもらい、跳び箱実践時に取り組んでいる。</p> <p>○運動会でポーンボードを使った運動を取り入れ、子ども達が意欲的に取り組めた。</p> <p>○ボール遊びでは、経験の段階に応じた遊びを指導してもらい、実践している。</p>		<p>○鉄棒の指導方法及び環境構成を保育に生かすことで、子ども達の鉄棒への意欲向上や成果につながった。ポーンボードやゴム等を使った運動遊びでは様々な体の動きを経験させたり、身につけさせたりすることができた。また、教師もどの遊びがどの動きの習得につながるかということを実際に見て理解することができた。</p> <p>○ボールを使った遊びでは、子どもの経験や発達に応じた指導方法を知ることができた。</p>	<p>▲ポーンボードは大変役に立ったが、価格が高く、もう少し安価であると園でも実践していける。</p>
6	<p>○「先生、跳び箱したい。」「鉄棒したい。」「ポーンボード出して！」など運動遊びを自分から意欲的にする姿が見られた。また、ポーンボードでは、自分たちで乗り方を工夫したり友だちと一緒に遊んだりする姿が見られた。</p>		<p>○フープ、ゴム、跳び箱、平均台、縄など幼稚園にある器具を使っでの指導だったため、器具の様々な使い方や指導方法を学べ、次の日からすぐ実践することができた。</p> <p>○リズムの良い言葉かけや子どもの意欲を引き出す言葉かけをしておられ、今後の指導の参考になった。</p>	<p>▲指導を受けてから園用に購入したポーンボードの活用について、子どもの実態を見ながら工夫していくことが課題であると思われる。</p>
7	<p>○当日の姿で普段は、あまり体を動かす遊びに興味を持たない子どもが、様々な体の動きを楽しみながら、喜んで遊ぶ姿が見られた。</p> <p>○この活動をきっかけとして意欲的に運動遊びに取り組めるようになった。</p> <p>○逆上がりができる子どもが増えた(怖がらずに遊具に取り組もうとするようになった)。</p>		<p>○鉄棒や縄跳びの援助の仕方が具体的によくわかった。</p> <p>○ボールも前に投げてキャッチするのではなく、横に投げて目で追ってキャッチをすることから始めるなど子どもの成長に合わせた運動の仕方や基礎を教えてもらいためにあった。</p> <p>○様々な体の部位に関心を持たせながら体のいろいろな部分を動かして遊ぶ、運動遊びを教えてもらうことができ、大変参考になった。</p>	

No.	幼児		教員・保育士	
	成果	課題	成果	課題
8	○運動・体を動かすことに興味・関心が低くはなかった子どもたちだったが、指導を受け、更に積極的に運動に向き合うようになり、自由あそびの中でも取り入れる姿が見られるようになった。	▲体を動かす時間を増やしていく中で、子どもたち自身がもっと自分自身の体について知り、コントロールしていくことができるようになっていきたい。	○子どもへの指導を通して、少し難しい課題を与えることで、子どもたちは思っていた以上に興味を持って取り組み、楽しんで参加している姿が見られ、改めて指導者側の工夫が大切なのだと感じた。	▲子どもたちの興味・関心と共に運動に触れる機会を増やしていけるよう取り組んでいきたい。
9	○体力向上支援事業で行った運動遊びに子どもたちは意欲的に参加し、取り組んでいた。体力向上支援事業で経験した運動遊び(鉄棒、縄跳びなど)を、翌日には自分から挑戦したり、挑戦する友だちに刺激を受けて同じことをしようとしていたりする子どもたちの姿が見られた。	▲運動遊びに苦手意識がある子どもは、その時の活動だけで終わってしまい、後に続いていけないことが感じられる。運動遊びに気持ちが向くにはどうすればいいかというきっかけを探り、見つけていくことが今後の課題であると感じる。	○様々な運動遊びを見せて頂いたり、実際に子どもたちと同じ運動遊びをやってみたいすることを通して、ひとつひとつの動きを引き出すためのコツをたくさん学ばせてもらったように思う。どの年齢でどんなことを経験させたいか、何を体験させれば良いかなど、園全体としての運動遊びのねらいや課題について、職員同士で話題にしたり、共通理解したりすることで、運動遊びの発達や育ちにつながりを持たせるようにしていくことの大切さを学んだ。	▲園で大切にしている見つけた遊びの中に、このような運動遊びを取り入れて楽しんでいけたらと思う。
10	○跳び箱の指導により、ほとんどの子が飛べるようになった。また、飛べたこと、がんばったことで自身や満足感につながった。	▲今回、年長児・年中児の指導をしてもらったが、指導の中で年少児より始めたほうが良いこと(なわとびなど)があり、園全体で取り組めたらよいと感じた。また、子どもたちのバランスが気になっており、その点でも小さいころからの取り組みが必要になってくると感じた。	○指導方法が具体的にわからず、各保育士が自分なりに指導していたが、できない子ができたり、そのことで楽しめなかったりしていた。指導を受け、自然と跳び箱や鉄棒の動きが身についたり、子どもたちが楽しめる指導方法だったので、子どもたちも意欲的に参加でき、飛べるようになったり、回れるようになったりした。	▲指導が中途半端になってしまい、途中で途切れていることが多かった。年間を通して運動の計画を立て、継続的に進めるようにしていきたい。
11	○身体を動かして遊ぶことの楽しさを味わい、自ら身体を動かす姿が多く見られるようになった。 ○基本の動きが身につく、安全に楽しんでいけるようになった。今後も積み重ねていき、体力の向上に努めたい。		○運動遊びの基本が保育者にも身につく、指導ができるようになった。 ○指導方法により、子どもの興味とやる気が変わってくるのがわかった。指導方法を学び、子どもにとってよい指導を進めていきたいと思う。	
12	○体を動かすことは好きだけれど、初めての遊びやちょっと難しい遊び、苦手の遊びには挑戦しにくい子どもが多い。しかし、個人差はあるが、指導を受けると、「やってみよう」と挑戦する気持ちを持ち、恐る恐るではあるが、取り組む姿が見られた。そこで、できたり楽しかったりすると自信を持ち、どんどん遊んでいくようになった。	▲今後の課題は繰り返し遊ぶことで、自分たちで工夫しながら、遊びを発展されるようになるとういと考えている。そのためにも様々な運動遊びを意欲的に楽しめるように保育者が工夫していきたい。	○保育所にある運動用具を使って様々な運動遊びができることが分かり、日々工夫して保育をしていかなければならないと改めて感じた。また、遊ぶ際のような言葉かけをするとういのが戸惑うことがあったが、指導のポイントを教えてもらうことで、どのような視点で子どもを見て、どのような言葉かけをしていけばよいのか大変参考になった。	▲今後の課題は、ここで学んだことをいかに日々の保育の中で継続していくかだということだと思う。様々な経験をする、また毎日積み重ねることの大切さも知った。運動遊びをする場所や時間の工夫をしていきたい。

No.	幼児		教員・保育士	
	成果	課題	成果	課題
13	<p>○ゴム跳びを経験、側転時に足が高く上がるようになった。日々の保育の中でゴム跳びを取り入れ繰り返しすることで、スピードも上がり、楽しみながら四つん這いやジャンプをするようになった。</p> <p>○跳び箱を横に置き、ゆびをかけることを意識することで軽々と跳べるようになった。</p>		<p>○マット、跳び箱、ボールなどの指導方法を教えていただき、遊びながら少しずつステップアップしていき、遊びの内容など具体的に知ることができ、すぐに遊びに取り入れることができた。</p>	<p>▲狭い場所でも有効に使えるサーキットのコースづくりを教えていただいたが、まだ実践できていない。危なくないよう見守りながら、子どもたちが思いきり体を動かして遊べる環境を整えたい。</p>
14	<p>○以前から体を動かすことは好んでいたが、より積極的になったと感じる。</p> <p>○何より苦手だった子どもが「怖くなかった」と恐怖心がなくなり楽しんでた。</p> <p>○指導後も教えてもらったことを思い出し「できた」と当日できなかったことができるようになった。また、「こんな風にもできるよ」と子ども自身がアイデアを出し、様々な動きを楽しむことができた。</p>	<p>▲中には、運動が苦手な子どももあり、すぐに「疲れるから嫌だ」と言い消極的な姿も見られた。</p>	<p>○指導法がとても分かりやすく、子ども達が楽しんだり、できるようになっていく姿を見たり、することができ、おもしろさや、やりがいを感じた。</p> <p>○借りたポーンボードを使って様々な動きを楽しんだ。また、跳び箱でのテンポを大切にするためにタンバリンを用いて音を出し、リズムがつかめるようにすると、子ども達にはすごく分かりやすかった。</p>	<p>▲指導していただいたことを継続していく難しさと自分なりにアレンジしていく難しさを感じた。</p> <p>▲意欲が高い子どもと低い子どもを同時に指導していく調整力とバランス力を学びたい。</p> <p>▲ポーンボードを育てた記念品として購入させていたので、引く続き、遊び続けていきたいと思う。</p>
15	<p>○体幹や足(指先)を鍛えたりボールを遠くに飛ばす投げ方を知ることができた。</p>	<p>▲必要な体の使い方を知ること、ボールを蹴ることに段階がある。</p>	<p>○子どもたちに身体の動かし方を伝えることで、運動能力が伸びることを知った。</p>	<p>▲子どもたちに体の使い方や動かし方を分かりやすく伝えてイメージさせる指導をすることが課題である。</p>
16	<p>○体を動かし発散することに、より意欲的な姿がみられている。</p>	<p>▲意欲的な分、先を急いだり周りの友だちとのいざこざが起こったりする。</p> <p>▲運動技術が身につけていない場合、危ない動きやけがに繋がったり、自信に欠けて苦手意識をもち、消極的になったりする。</p>	<p>○講師の先生から実技を通して、運動指導のポイントを解説付きで展開していただき、非常に分かりやすく参考になった。(特に運動を苦手とする子や、動きがぎこちない子への働きかけの仕方など)</p> <p>○スペースの有効的な利用の仕方や子どもを動かすスピーディなテンポ、声掛けなど、いかに楽しく動かせるか、等々たくさんの刺激を受けた。</p>	<p>▲今回学ばせていただいたことを、今後どう活用していくか。</p>
17	<p>○教えていただいた次の日から子どもたちから「昨日教えてもらった〇〇がしたい。」と運動遊びを進んでする姿が見られるようになった。</p> <p>○毎日、鉄棒の前回りを朝の集会の前に取り入れた。ほぼ全員が補助なしで前回りができるようになった。今は逆上がりに取り組んでいる。</p>		<p>○習慣として運動遊びを取り入れることの意識を持つようになり、クラス間の移動で運動的要素を取り入れた「遊戯室＝運動の場」ではなく、クラス内でもできる運動をしたりするようになった。</p>	
18	<p>○普段鉄棒が苦手で取り組みにくい個も、逆上がりに挑戦するようになった。</p> <p>○跳び箱の踏切のコツをつかみ、跳べるようになった子が増えた。</p>	<p>▲すぐに「疲れた」と言って座りたがる体力の少ない子が多いこと。</p>	<p>○跳び箱の跳ばせ方や逆上がりの指導法など、これまで間違った指導を行ってきたことが分かった。段階を踏ませながら進めることで、恐怖心なく取り組む子が増えた。</p> <p>○平ゴムとコーンを用いて狭い空間でも十分に体を動かすことのできる場の作り方が分かり、2歳児から5歳児までの幅広い年齢で体を動かして楽しむことができています。</p>	<p>▲身体の発達に合わせた運動遊びを未満児から継続して行っていくこと。</p> <p>▲運動や用具についての知識を増やすこと。</p>

平成28年度 未就学児の体力向上支援事業  
専門指導者派遣事業 実施要項

1. 目的

- 専門指導者を派遣し、年長児に対して発達段階に適した好ましい運動習慣のきっかけづくや体力向上推進に向けた多様な動きを経験する運動プログラムを提供することで、運動への興味関心をもたせるとともに、小学校入学以降に体育の授業に苦手意識をもたないようにする。
- 幼稚園・保育所等で実践を行うことで、教員、保育士の研修の場とし、資質の向上を図る。

2. 主催 島根県教育委員会

3. 対象 松江市内幼稚園、保育所等

4. 会場 実施園

5. 期間 平成28年5月～平成29年2月  
(火曜日を原則とする)

6. 派遣回数 全36回  
(同一園は少なくとも2回以上とする)

7. 内容：運動プログラムの実施及び指導方法の伝授

- (1) 対象 幼稚園・保育所等の年長児  
※園の規模によっては年中児と合同でも可
- (2) 内容 専門指導者による発達段階に適した全身運動を中心とした各種の運動
- (3) 検証 事前に体力テスト(25m走、立幅跳び、ボール投げ)の記録を測定し、専門指導者による派遣

後に再び体力テストの記録測定を行う。記録を比較するとともに、意識調査(教員・保育士対象)を行うことで効果を見る。

8. 講師 特定非営利活動法人ジョイナススポーツクラブ  
<活動目的>

主にスポーツ教室・講師派遣を主軸とし、幼児から高齢者・障がい者までを対象とした、スポーツの啓発・普及活動を行い、精神の高揚と健康の増進ならびに体力の向上を目指すとともに、スポーツ指導者の育成事業やスポーツ競技力を促進することにより、地域社会全体の発展に寄与する。

<実績>

出雲市内幼稚園、保育所への指導者派遣及び研修会講師  
鳥取県「子どもの体力向上プロジェクト」への指導者派遣

9. 実施の流れ

- 4月28日 希望調査票提出締切  
(幼稚園・保育所等→子育て課)
- 5月上旬 選考・調整  
(希望数が派遣枠を超えた場合には、地域性や幼稚園、保育所等のバランスを考えて派遣先を決定する)
- 5月中旬 決定・通知の送付  
(保健体育課→子育て課→幼稚園・保育所等)
- 5月下旬 事業実施